

EPO

東北通信



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD活動支援センター



令和元年度



巻頭対談

EPO東北、東北地方ESDセンターの振り返りと今後の展望 2・3

Topics

EPO東北

みちのく薪びと祭り	4・5
ビジターセンター意見交換会	6
環境省支援事業	7
ヒアリングレポート、他	8

東北地方ESD活動支援センター

青森県ESD/SDGs勉強会	9
東北ESD/SDGsフォーラム in 仙台	10・11
ESDネットワークの形成	12

他団体連携

GreenGift地球元気プログラム	13
地球環境基金との連携	14

Information

刊行物のご紹介	14
---------------	----

Photo Reports

共催・協力したセミナー	15
-------------------	----

EPO東北、東北地方ESDセンターの振り返りと今後の展望

本号から誌面を大きくリニューアルしました。

2020年の新しい節目のスタートにあたり、EPO東北と東北地方ESD活動支援センター、両委員会の委員長による対談を行いました。

立ち上げの頃から振り返り、東日本大震災を経てどのような変化があったのかお話を伺いました。

東北環境パートナーシップオフィス
事業検討委員会

委員長 **新妻 弘明**

東北大学 名誉教授、
日本E/My研究所 所長

東北地方 ESD 活動支援センター
企画運営委員会

委員長 **見上 一幸**

公益社団法人仙台ユネスコ協会 会長、
宮城教育大学 名誉教授



NIITSUMA, Hiroaki



MIKAMI, Kazuyuki

新妻 私は立ち上げの頃からEPO東北に関わってきましたが、当時国際的に、環境問題には「協働」が重要だという認識が広まっていました。我国では環境省が「協働」のための拠点を地方ごとに整備することになりました。ところが協働には相手があるわけです。地域によって、また、相手によって協働の仕方はそれぞれ違わないといけないわけですが、そういう概念すらできていなかった。EPO東北の運営第1期は「協働とは何か」を模索していた時期でしたね。

見上 大学の立場から環境団体を見た時に、皆さんとても熱心なのですがそれぞれこだわりがあり、隣に別の団体がいても折り合わない。お互いどういってお付き合いをしたら良いか分からなかったのではないのでしょうか。教育の現場に環境団体の方が助言をしにいらっしゃる。ところが、あの学校はこんな大事なことを教えたのにすぐにやろうとしない、ひどい学

校だと仰るわけです。学校では1年前に年間行事が決まっています。急には対応できず、あの人たちはうるさいと敬遠する。そんなことが聞こえてきましたね。

新妻 運営第2期に入って請負団体が変わったわけですが、とにかく話を聞きに行くことから始めました。それは今から見ると極めて妥当でした。今ではそれがEPO東北の特長の一つになっています。私はEPOにとっての協働とは「トップダウンとボトムアップの出会いだ」と以前から言っていたのですが、それが確信に変わったのは東日本大震災の時でした。国の方針に基づき様々な施策があるわけですが、それはあたかも大きな岩塊に上から水をかけているようなもので、流れるところには流れるが、流れないところには流れない。しかも省庁縦割りなどもあつたりするわけです。ところが現場は常にトータルなものです。そこから沸き上がってくるものと上からの流れが会

い、そこでお互いの学びと気づきがあれば、新たな展開が生まれます。EPOの役割はそのような場を創ることなのではないでしょうか。

見上 確かにそうですね。「ESD」が出てきて、教育という環境以外の流れが“持続可能な社会”を目指して混在する状況になり、「ESDの10年」でそれを皆が認めるようになりました。その後の東日本大震災では、直後の復興の過程でESDのネットワークが活きて、良い効果が表れたと思えました。

新妻 EPOの大事な役割のひとつが「つなぐ」ことですね。

見上 はい、ESDでもキーワードの一つが“つながる”です。常日頃からネットワークができていて、災害の時に窮状を訴え、情報を得ることができずから、地域としても強いですね。

新妻 行政は部署によって役割が明確ですが、それはトップダウンのネットワークなんです。EPOはそこからもう一歩踏み込んで、相手の話を聞きながら考える。相手が何をやっている人なのかを虚心坦懐に踏まえて対話することができる。そうしてつくり上げてきたネットワークがあったことは大きかったですね。

見上 自由度があっというろんな形のネットワークを作りやすいから、離れているものをつなげる糊の役割ができたのでしょね。大震災の時は状況が刻々と変わり、ネットワークを流れる情報の変化にも迅速に機能しました。

新妻 東北の強みは震災を経験していることだと思います。震災が起きた時、人々は水や食料を得ることなど、全てにおいて自ら当事者にならないといけません。つまり、大自然を前に、当事者としての主体性を体験したわけです。環境共生社会の実現がただのプロパガンダではなく、社会全体の「実体」をつくりあげていくフェーズに入った時、いかに人々が主体性や内発性を持って取組むかが重要なわけです。東北の人たちは震災によってこれを体験しており、世界を牽引していく可能性を持っているのではないのでしょうか。

見上 東北は昔から自然と共生して生きてきています。現代人が忘れてしまった先人の知恵のようなものが震災によってもう一度呼び起こされたのですね。

新妻 SDGsが出てきた時、何を当たり前のことと言っているんだろうと思えました。地域の皆が未永く豊かに暮らすためには、当然あそこに書いてあるようなことは考えていないといけないうですね。

見上 昔は「地域」がしっかりしていたんじゃないかなと思います。川で洗濯したら汚れた水が下に流れていくことを昔の人は当たり前で考えていた。今の人は多くが自分が洗濯することしか考えないのでないか。温故知新、SDGsをきっかけに、またその感覚が取り戻せたらいいなと思います。ESDの広がりがもう一歩であった中で、具体的な目標としてのSDGsによって企業にとっても自分ごとになりました。

学校でも取組みやすくなったと思います。

新妻 各企業にSDGsの担当者ができて、今まで環境のことをあまり考えたことのない人達が当事者になる。それは良いことですね。

見上 東北でも多くの企業が関心を持ってきていて、“ああ、確かに何か変わりそうだ”と感じています。

新妻 SDGsはあくまでゴールであって、SDGs活動そのものを目的にはいいけませんね。

見上 全くその通りです。EPO東北や東北地方ESDセンターの役割の一つは、SDGsなどの考えが行き渡っていないところに情報を流すこと、あるいは東北全体をつなげるということ、それはとても意義があることだと思います。

新妻 日頃自然と向き合っていて活動している人たちに、ああ我々がやっていることでよかったんだと思ってもらうことも重要です。震災によって、我々が自然と関わりあいながら生きていくということはどういうことなのか、その実体が見えました。そこでは自ずと協働の仕方、人との接し方、地域社会のあり方などの学びにつながった気がします。

見上 情報を共有して東北全体でコミュニケーションができるようになると良いですね。東北の人は多くを口には出さないけれど内に考えを持っておられます。それらを丁寧に拾い上げてつなぐことができれば、新しいものに発展するのではないのでしょうか。

運営団体	EPO東北運営期	主な出来事	社会の主な出来事
NPO法人 水環境ネット東北	2006年度	7/22 EPO東北 開設 EPO東北環境フォーラム(2日間)の開催 秋田県八郎湖 水環境保全事業の実施 「EPOサロン」の開催	アジア太平洋水フォーラム設立
	2007年度		IPCC第4次評価報告書公表
	2008年度		G8洞爺湖サミット(北海道)
	2009年度		国連気候変動サミット
	2010年度		3/11 東日本大震災
公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	2011年度	「3.11あの時」ヒアリング開始 冊子「3.11あの時」発行 EPO間連携による交流会事業実施	持続可能なビジネスと消費に関する国際会議
	2012年度		国連持続可能な開発会議(リオ+20)
	2013年度		地球温暖化対策推進法を改正
	2014年度		ESDの10年国際会議(名古屋)
	2015年度		持続可能な開発目標(SDGs)採択
	2016年度	6/14 EPO東北 オフィス移転 EPO間連携による3.11語り部派遣事業実施 東北地方ESD活動支援センター設置に向けた検討 7/3 東北地方ESD活動支援センター 開設 東北ESDフォーラムin岩手開催 「みちのく薪びと祭り」東北1巡	G7伊勢志摩サミット(三重)
	2017年度		開発のための持続可能な観光の国際年
	2018年度		世界各国で若者による「FridayForFuture」運動
	2019年度		ダボス会議 「持続可能な世界」をテーマに開催
	2020年度		
	2021年度		

みちのく薪びと祭り

What?

東日本大震災では再生可能エネルギーの利用が注目され、特に森林エネルギーにおいては薪ストーブの活躍事例が多く見られました。平成24年度から再生可能エネルギー交流会を企画し、平成26年度から地域開催型交流会「みちのく薪びと祭り」を実施しています。東北各地で薪をテーマに活動する団体が一堂に会して相互交流を行うことで、活動の活性化とネットワークづくりを目的としています。



第1回企画検討会議(山形県三瀬地区)

第1回 in 山形さんぜ

2014年度
(平成26年度)



第2回 in 岩手とおの

2015年度
(平成27年度)



第3回 in 福島みなみあいづ

2016年度
(平成28年度)



第4回 in 宮城なるこ

2017年度
(平成29年度)



第5回 in 秋田梅内

2018年度
(平成30年度)



第6回 in 青森おおわに

2019年度
(平成31年度)





第6回 みちのく薪びと祭り in 青森おおわに

開催日	2019年10月26日(土)・27日(日)
会場	わにもっこ企業組合「迎賓館」他(青森県南津軽郡大鰐町)
主催	薪ストーブ愛好会「くべる部」、EPO東北
共催	EPOちゅうごく、四国EPO

Report

東北各地で開催してきた本事業は6回目を迎え、東北を一巡することができました。薪割りやチェーンソー作業、伐倒の事故が毎年起きていることから初心に戻ろうと「安全」をテーマに企画し、東北各地から47名の参加がありました。

まずは青森県内の大学や森林組合の活動と安全対策について伺いました。中国・四国地方からも事例紹介をいただいた後、分科会形式で参加者同士の議論を深めました。2日目には薪割り、チェーンソー、薪割り機、薪ストーブ着火の4つの作業を体験するフィールドワークを実施しました。参加者のほ

とんどの方が、作業中に危険な体験や危険な場面に遭遇しています。皆さんの体験談も交えながら、改めて作業の安全確認や作業服・道具の正しい使い方を共有しました。参加者からは「原点に立ち返ることができた」との声が多く寄せられました。

みちのく薪びと祭りの開催を重ねるごとに参加者の交流が深まり、互いの活動フィールドを訪れて学び合うなど協力・連携する関係が生まれています。東北らしさや東北ならではの地域性を強く意識した一体感が生まれているように感じています。



八戸市森林組合 工藤氏の講演 安全作業着の説明



フィールドワーク・チェーンソー作業講座

参加者の声

- 薪づくりについて大変勉強になりました。ありがとうございました。
- いつも役に立つ情報を得られる事がよい。新しい団体と古い団体の情報交換は今後も必要だと思う。
- 場の雰囲気良かった。薪に対する情熱がすごい。
- 長年の作業の中で新しく覚えたことが多かった。



東北地方ビジターセンター及び関係機関・組織意見交換会



地域の文化や歴史と絡めた一押しプランを考えるワークショップ

開催日 2019年11月28日(木)

会場 名取トレイルセンター
(宮城県名取市)

主催 EPO東北

What?

EPO東北では東北地方の環境省直轄ビジターセンター・インフォメーションセンター*を主な対象とした交流会を2018年度から開催しています。ビジターセンター・インフォメーションセンターは国立公園や国定公園の自然(地形、地質、動植物など)の情報を展示・解説し、公園の利用案内を行う施設です。

東北地域でのネットワークづくりと学びあいの場づくりを目的としています。

*国立公園や環境省直轄のビジターセンター等の情報は環境省のウェブサイト「日本の国立公園」でご覧いただけます。

Report

冒頭に会場の名取トレイルセンターの事業および館内紹介をしていただき、続いて霧島錦江湾国立公園の自然を紹介する施設「なぎさミュージアム(鹿児島県)」の取組みについてくすのき自然館代表理事の浜本奈鼓氏に基調講演をいただきました。また、EPO九州

澤克彦統括から九州地方におけるビジターセンター交流会について話題提供をいただきました。

会の後半には、国立公園や名所を巡る旅行プランを考えるワークショップを行い、各施設のスタッフならではのアイデアを出し合いました。



名取トレイルセンターはみちのく潮風トレイルの拠点施設



東北各地から45名の関係者が参加しました

参加者の声

- 地域の人との協働というところでとても頑張っておられ、お手本にしていきたいと思いました。
- 自分のエリア以外との連携について改めて力を入れていきたい。
- 自分の地域の良さなどをじっくり考える機会となり、日々の活動ばかりに目がいていたので改めて考える事が出来た。
- 普段直接会えない方々との交流は大変貴重で励みになりました。

環境課題と社会課題を同時解決するための支援事業

SDGsを活用した同時解決事業

環境省が実施している「持続可能な開発目標(SDGs)を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」は地域における環境課題の取り組みを、SDGsの活用によって他の社会課題の取り組みと統合的に進めることで、それぞれの課題との関係の深化、ステークホルダーの拡大、課題解決の加速化等を促進することを目的としています。全国で8事業が採択され、EPO東北は東北地区の支援事務局として、採択団体である鶴岡市三瀬地区自治会の取り組みを伴走支援しました。



東北地区採択団体 山形県鶴岡市三瀬地区自治会

木質バイオマスエネルギー自給自足活動事業

三瀬地区では、地域の森林の荒廃と少子高齢化・人口減少が課題となっています。自治会が中心となり、地元の企業、行政、団体や地域住民を巻き込みながら、地域材を木質バイオマスエネルギーとして活用し、エネルギーの地域内循環と同時に雇用創出、防災意識の向上など複数の課題を同時に解決していくことを目指しました。地域の大型施設への薪ボイラーや薪ストーブの導入に向けて議論を深め、取り組みを地域内外に発信するため、イベントの開催、出展を行っています。また地域の小学校と連携して避難道に木質チップを敷く事業も行っており、三瀬地区の未来が明るく、元気になることを目標に様々な取り組みを行いました。



地域イベント「山の感謝祭」での事例発表

EPO東北の支援取組

SDGs勉強会の開催

- 開催日** 2019年7月11日(木)
- 会場** 荘銀タクト鶴岡(山形県鶴岡市)
- 主催** EPO東北、三瀬地区自治会

三瀬地区自治会の取り組みや、市内の保育園、鶴岡市の事例紹介からSDGsについて学ぶ勉強会を開催しました。平日夜の開催でしたが、行政職員や学校関係者、議員、高校生、一般市民など70名が集まり、関心の高さが伺えました。参加者からは「勉強になった」と感想が寄せられた他、三瀬地区の取り組みに多数の応援コメントをいただきました。



会場全体での意見交換

合同ブロック研修会

- 開催日** 2019年8月29日(木)～30日(金)
- 会場** 山形県鶴岡市三瀬地区コミュニティーセンター他(山形県鶴岡市)
- 主催** EPO東北、関東EPO、EPO九州

事業としては初の試みとなる、東北、関東、九州地区の採択団体の合同ブロック研修会を開催しました。これまでの成果や新たに出てきた課題、SDGsの活用について共有し、意見交換を行いました。また三瀬地区の皆さんが協働でプロジェクトに取り組む現場を見てもらう、視察を行いました。



現地視察では地域の方からお話を伺いました

パートナーシップ団体学習会

開催日 2019年11月15日(金)

会場 EPO東北

主催 EPO東北

What?

EPO東北では東北各県で円滑に事業を推進するために、県全域で活動する各県の団体と連携・協力をしており、「パートナーシップ団体」と呼んでいます。地球温暖化防止活動推進センターの指定を受ける団体等、9団体で構成しています。

Report

SDGsへの関心が東北各地で高まっており、各団体ではセミナーや出前講座、SDGsカフェを開催しています。様々

な職種の社会人、主婦、学生など幅広い層からの参加があり、まずは知りたいというニーズがあること、一方で、秋田県内で行ったアンケート調査では「聞いたこともない」が81%(3,000人が回答)であったことなど、取組みについて情報交換を行いました。

後半は環境省が進める気候変動適応策と地域循環共生圏について、東北地方環境事務所より話題提供をいただきました。2018年4月に閣議決定した第五次環境基本計画では、SDGsやパリ協定、複雑化する社会の課題を踏ま



年に1回程度、情報交換と学習の機会を設けています

え、複数の課題の統合的な解決という考え方も活用した「地域循環共生圏」が提唱されています。また、2018年12月に気候変動への適応を推進することを目的として、気候変動適応法が施行されました。

ヒアリングレポート 住民参加で創ったみんなの交流館

ヒアリング日 2019年12月10日(火)

団体名 一般財団法人 ならはみらい

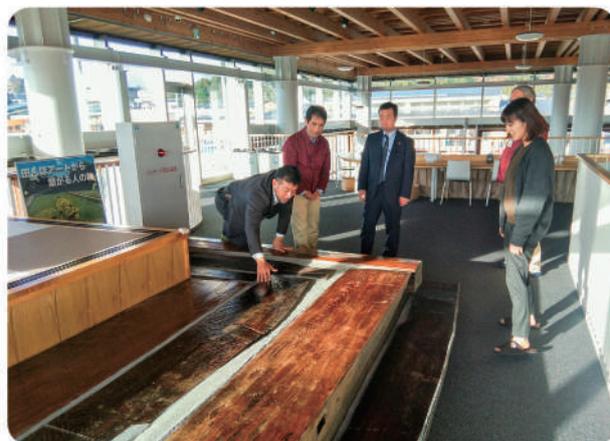
What?

EPO東北では地域の情報収集とネットワークづくりを目的に、様々な団体にヒアリングを行っています。東日本大震災から10年の節目を前に、福島県内で活動する団体へのヒアリングを行いました。

Report

「みんなの交流館 ならはCANvas」を運営する一般社団法人ならはみらいにお話を伺いました。交流館は、全9回の住民ワークショップで語られた想いをもとに設計された施設です。

皆の家のような空間になるよう大きな屋根と縁側が設けられ、本を読んだりお茶を飲んだりして過ごせる吹き抜けの「みんなのリビング」、木のボールプールや絵本があるキッズスペース、



津波で被災した家屋の柱を利用して作られた和室の小上がり

チャレンジショップもできる調理室、学生が勉強できるワークスペース、楡葉町民に愛されるホトギス山を一望できる和室など、皆の「あったらいいな」が詰め込まれた交流館が誕生しました。

「町民の皆さんが主体的に関わることで、本当の意味で『みんなの施設』になっていった」と伺いました。

DATA

みんなの交流館
ならはCANvas

所在地/
福島県双葉郡楡葉町
大字北田字中満
260番地

第1回青森県ESD/SDGs勉強会



青森大学 藤公晴教授による講演

- 開催日** 2019年12月22日(日)
- 会場** アウガ(青森県青森市)
- 主催** 青森県環境パートナーシップセンター、東北地方ESD活動支援センター

What?

ESD・SDGsは学習指導要領や教材に明記されることが決定しており、学校現場ではすでにユネスコスクールを中心に取り組みが始まりつつあります。地域ESD推進拠点である青森県環境パートナーシップセンターと協働して、青森県内でのESD教育、SDGsへの理解を深め、実際にどのように取り入れていくことができるのかを考えていただく教員向けの勉強会を開催しました。

Report

はじめに、青森大学SDGs研究センター長の藤公晴氏に、ESDやSDGsの国際的な動きや環境教育とESD・SDGsの位置付けをお話いただきました。続

いて、東北地方におけるESD・SDGs教育の先進地の取り組みをご紹介いただきました。気仙沼市立鹿折小学校の浅野亮校長と只見町教育委員会の齋藤修一前教育長に、学校のカリキュラムや地域と連携した教育の実践についてお話伺いました。

会の後半はグループに分かれて、2030年の明るい青森県の未来を目指すためにはどのような教育が必要であるかを考えるワークショップを行いました。学校現場での課題を共有しながら、今後ESDやSDGsにどのように取り組み、生徒に青森県の良さを伝えていくことができるのか意見交換が行われました。最後に各グループで出た意見を会場全体で共有しました。



青森県の未来と学校教育を考えるワークショップ

参加者の声

- 学校サイド、行政サイド両方からの視点での具体的な話を聞く事ができた。
- ESD、SDGsと地方創生、教育の仕組みが少し解きました。
- 実践例を具体的に聞く事ができる研修会等に参加して、もっと勉強することが必要だと感じた。
- 「名前を知っているが、内容が分からない」「実際に現場での取り組み方がわからない」といった時に参考として活用できる会であった。

東北ESD/SDGsフォーラムin仙台



NPO、企業、行政、学校関係者、個人など多くの方にご参加いただきました

開催日 2020年2月9日(日)

会場 仙台国際センター 会議棟3F中会議室「白檀(しらかし)」
(宮城県仙台市)

主催 環境省東北地方環境事務所、東北地方ESD活動支援センター

What?

ESDはSDGsの4.7に記載されており、持続可能な社会の担い手づくりを通して17の全ての目標に貢献します。ESDをより一層推進することがSDGsの達成に直接・間接につながるものととらえ、関心のある様々な立場の人が集まり、相互交流と学び合いの場を創出

することを旨として「東北ESD/SDGsフォーラムin仙台」を開催しました。開催にあたっては、東北地方のESDとユネスコスクール活動推進を目指すESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムとの共催で企画に取り組みました。

Report

東北各地から147名の参加をいただきました。基調講演では「SDGsを自分ごと化するための視点」と題して石井雅章氏(神田外語大学言語メディア教育研究センター准教授)に講演をいただきました。SDGsのとらえ方、「持続可能な開発」の概念の変遷、「2030アジェンダ」についてなど、SDGsの入り口の話から始まり、後半はSDGsが目指す世

界と自組織における個々の活動との関係をとらえ直すことの重要性についてお話しがありました。

話題提供では平成30年度に盛岡で開催した東北ESDフォーラムのその後の動きについて紹介いただきました。フォーラム実行委員が企業とも連携して、SDGsに関心のある方が自由に参加できる「SDGsカフェ」が毎月盛岡で開催されています。

後半には東北各県から、大学、行政、NPO、高校など様々な現場の事例を紹介いただきました。各地域での事例に対して「どれも具体的でSDGsの概念を理解する助けになりました」と感想が寄せられました。また、会場内では各地の取り組みを紹介するパネル展示を行い、名刺交換と交流の時間を設けました。多くの方にご参加いただき、情報収集と交流の場として活用していただけたことを大変嬉しく思います。





勉強になったと好評だった基調講演



講演の途中で隣の人とおしゃべりタイム



東北各県から事例を紹介いただきました



企業、学校、NPO等にご協力いただいたパネル展示



会場全体で意見交換を行ったクロージング



交流の時間も盛り上がりました

参加者の声

- SDGsについて、基調講演で改めてお話を聞くことができ良かったです。SDGsの視点をどうやって使うか、今後留意したいと思います。事例も色々聞くことができ、今後のプロジェクトに生かせるのではと思いました。
- 学校内での導入がかなり進んでいることに驚きました。NPOや福祉の分野の方の事例紹介もとても参考になりました。企業も今後自分達で何ができるか考えていく必要があると感じました。
- SDGsやESDについてこれだけ盛り上がっていることを実感できた。また、取組みも様々あることを見て聞いて知ることができたことは自分にとって大きな成果である。青森でもSDGs・ESDを熱く語るようになりたいと感じました。

- SDGsの活動をあてはめるのではなく自分たちが今行っているSDGsの取組みが何に貢献しているかを考えてみることから始めたい。
- まずはアジェンダを読んで理解を深めます。
- 中学校での取り扱い方を考えてみたいと強く感じました。様々な実践を参考にしたいと思います。
- SDGsを地域、学校でどのように進めるか、異業種、東北各地の取組みから多くの知恵をいただいた。
- SDGsの言葉しか知らなかったのが、大変勉強になりました。また、何から学べばいいか入口を見せていただきました。

ESDネットワーク会議

開催日 2020年2月9日(日)
会場 仙台国際センター 会議棟3F中会議室「白檀(しらかし)」
 (宮城県仙台市)
主催 東北地方ESD活動支援センター

What?

東北地方ESD活動支援センターではESDに関する既存のネットワーク「ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム」と連携し、東北地方のESDネットワーク拡充と相互交流の促進に取り組んできました。ESDネットワーク会議は東北地方でESDに関する取組みを進める関係者の皆さまが一堂に集い、情報交流を行う場として開催しています。

Report

東北地方の関係者46名にご出席い

たいただきました。話題提供として環境省東北地方環境事務所から「地域循環共生圏」についてご説明をいただきました。また、気仙沼市立鹿折小学校校長の浅野亮氏より、SDGsを念頭においた学校経営、カリキュラムについてお話をいただきました。

後半は会場全体での意見交換を行い、教育委員会や企業、ユネスコ協会、環境団体のそれぞれから、取組みの紹



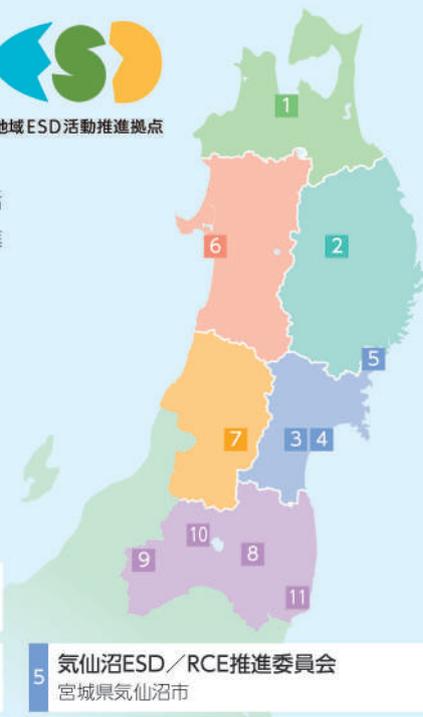
参加者全体で行われた意見交換

介と今抱えている課題についてご発言いただきました。SDGsの達成とESD教育への取組みは、あらゆるセクターの協働が必要であるという発言もあり、今後の連携・協働について考える機会となりました。

地域ESD活動推進拠点



地域ESD活動推進拠点



地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)登録制度

学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした地域のESDを支援する組織や施設に、「地域ESD活動推進拠点」としてご登録いただく仕組みです。

地域ESD拠点の役割

地方センターや他の地域ESD拠点とも連携・協働して、ESDの活動や学びを深めること、学びの機会や場を広め、担い手を増やしていくことが期待されています。

東北地方の地域ESD拠点

- | | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 1 NPO法人 青森県環境パートナーシップセンター
青森県青森市 | 2 NPO法人 環境パートナーシップいわて
岩手県盛岡市 | 3 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
宮城県仙台市 | 4 公益社団法人 仙台ユネスコ協会
宮城県仙台市 | 5 気仙沼ESD/RCE推進委員会
宮城県気仙沼市 |
| 6 一般社団法人 あきた地球環境会議
秋田県秋田市 | 7 NPO法人 環境ネットやまがた
山形県山形市 | 8 気仙沼ESD/RCE推進委員会
宮城県気仙沼市 | 9 只見町教育委員会
福島県南会津郡只見町 | 10 会津ユネスコ協会
福島県会津若松市 |
| 9 只見町教育委員会
福島県南会津郡只見町 | 10 会津ユネスコ協会
福島県会津若松市 | 11 NPO法人うつくしまNPOネットワーク
福島県郡山市 | 11 福島工業高等専門学校
福島県いわき市 | |

Green Gift 地球元気プログラム

東京海上日動火災保険株式会社「Green Gift 地球元気プログラム」

東京海上日動では「お客様とともに環境保護活動を行うこと」をコンセプトに、「Green Gift」プロジェクトを通じて地球環境保護に取り組んでいます。2013年から日本NPOセンターが主体となり、東京海上日動各支店、地域の環境NPO、全国のEPOと連携し、国内各地で、主に子どもたちを対象とした環境保護活動を展開しています。2016年から

は、1地域3か年の活動として拡充された「Green Gift 地球元気プログラム」がスタートし、青森県、岩手県、秋田県の3県で、東京海上日動の各支店と地域の団体が連携して取り組んでいます。EPO東北は企画助言や活動広報を行い、開催地の資源やつながりを活かしたプログラム作りをお手伝いしています。



➔ 詳細は Green Gift 地球元気プログラム ウェブサイトへ [Green Gift 地球元気](#) [検索](#)

青森県

小川原湖自然楽校 みんなのあおぞらプロジェクト

汽水湖である、青森県「小川原湖」で山から川、海への自然のつながりやそこに住む生物の問題を学ぶためのプログラムを実施しました。小川原湖周辺の圃場は土地改良が行われ、圃場にはメダカやイバラトミヨなどの多くの絶滅危惧種が生息しており、生き物を守るため、圃場から生き物を採取し、ピオトープにお引っ越しをするプログラムやカヌー体験、小川原湖に住む水草観察を行いました。



第2回カヌー体験出発前集合写真

岩手県

マイムマイム奥州 ひまわりから油をとるプロジェクト2019

休耕田を飼料用米の水田として復活させ、米を発酵させてエタノールを精製し、発酵したお米の粕を鶏が食べて、その鶏の糞を畑や水田で活用する循環型農業に取り組んでいるマイムマイム奥州。Green Gift 地球元気プログラムでは新たに「ひまわりから油を取るプロジェクト」を企画し、ひまわりが成長する工程の作業を体験し、また循環から生まれた食材を味わうことで、循環型農業を見て、聞いて、触れて、五感を使って体感できるプログラムを実施しました。



第2回ひまわりの種から油絞り体験

秋田県

一般社団法人あきた地球環境会議 こんな自然があったんだ!にかほの魅力を再発見! ～元滝伏流水自然観察と苔玉づくり体験～

秋田県南西部に位置し、山(鳥海山)と海(日本海)に抱かれた「にかほ市」にある、『平成の名水百選』にも選ばれた元滝伏流水の自然観察を行いました。また、きれいな水によって育てられた苔を使っての苔玉づくり体験や地元で育てられたそばの試食会を行いました。にかほ市のきれいな水が、豊かな自然や生態系から生まれることを学習し、環境について考えることができました。



第1回元滝伏流水自然観察

他団体
連携

地球環境基金との連携

地球環境基金助成金説明会

2020年度地球環境基金助成金説明会&SDGs活用セミナー

- 開催日** 2019年10月5日(土)
- 会場** 仙都会館(宮城県仙台市)
- 主催** 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部
- 協力** 東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)



SDGsを活用するためのセミナー

What?

「地球環境基金」は民間団体(NGO、NPO等)による環境保全活動を広く支援することを目的として、独立行政法人環境再生保全機構が運営しています。2020年度地球環境基金助成金の募集を開始するにあたり、募集内容や申請のポイントを解説する説明会と、SDGsを活用していただくためのセミナーを開催しました。

Report

2020年度地球環境基金助成金メニューの紹介や要望書の作成ポイントを共有する説明会を行い、宮城県仙台市を中心に、環境活動団体など14名が参加しました。前半にEPO東北より、SDGsを取組みに活用するためのセミナーを行いました。日本国内の取組事例を紹介し、参加者の取組みとSDGsの関係性を考えるワークショップを実施しました。後半は地球環境基金より助成金募集の内容や要望書作成のポイント、活動計画の立て方を解説する説明会を行いました。

Information

刊行物のご紹介

「3.11あの時」シリーズ

EPO東北では東日本大震災発生後、現地の声を各地に届けようとヒアリングに取組み発信してきました。あの時何が起きたのか、支援活動の成果と課題、大震災からの教訓が詰まっています。



3.11あの時 教訓事例集

「東日本大震災から得られた教訓を知りたい」との声にお応えして、異口同音に語られた「学び」を事例集としてとりまとめました。



3.11あの時事例集

—中間支援組織 1年間の後方支援活動の記録—
多くの支援の手を現場に届けるために仲介役として奮闘した団体の、大震災発生から1年間に渡る活動の記録集です。



EPO東北ウェブサイトでもPDF版をダウンロードしてご覧いただけます。冊子をご希望の方には無料で配布いたします。

環境ソーシャルビジネス事例集

東北の環境ソーシャルビジネス14事例を集め、冊子にとりまとめました。

環境省事業「環境NPO等ビジネスモデル策定事業」で採択された東北のプロジェクトの誕生秘話やその後についてレポートを掲載しています。また、東日本大震災で大きな被害を受けた地域で誕生したプロジェクトや、EPO東北スタッフがヒアリングの中で見つけた目からウロコのみちのく事例もご紹介しています。



「協働」に関する冊子

全国のEPOの連携のもとで誕生した「協働」をテーマに作成された冊子です。各地の事例から協働をすすめるためのヒントをとりまとめました。

- 環境保全からの政策協働ガイド
～協働をすすめたい行政職員にむけて～
- 協働ハンドブック1「協働の現場」
- 協働ハンドブック2「協働の設計」
- 協働ハンドブック3「協働の仕組」



「海洋プラごみゼロ・プロジェクト」研修会



主催 気仙沼市海洋教育推進連絡会、気仙沼市教育委員会
日時 2019年8月19日(月)
会場 気仙沼市立大島小学校、気仙沼大島 田中浜(宮城県気仙沼市)

EPO
共催

海洋プラごみについて考える授業の実践方法を学ぶ教員向け研修会が開催されました。座学とアクティビティを交互に交えながらの講話と、国際海岸クリーンアップの体験が行われ、当事者意識を持たせる手法について学びを深めました。

まなぶ!つながる!あきたNPO会議2019 SDGsで未来へつなげよう



主催 あきたNPO会議実行委員会
日時 2019年10月26日(土)
会場 秋田県ゆとり生活創造センター遊学舎(秋田県秋田市)

EPO
共催

秋田県内3つのNPOセンターが協働で開催している催しで、NPO、企業、行政職員、学生など43名が参加しました。SDGsをテーマに座学とワークショップを組み合わせたセミナーを行い、SDGsの活用について考えました。

未来につなげよう! 環境問題を考えるSDGsカフェ



主催 山形県環境エネルギー部環境企画課
日時 庄内会場 2019年11月6日(水) ※共創カフェと共催
 山形会場 2019年11月18日(月)
会場 庄内会場 東北公益文科大学(山形県酒田市)
 山形会場 ゆうキャンパス・ステーション(山形県山形市)

EPO
活動協力

次年度の山形県環境基本計画改定に向けて、若い世代の意見を収集することを目的に「SDGsカフェ」が行われました。高校生や大学生の他、SDGsに関心のある社会人の参加もあり、多世代の意見交換ワークショップが刺激を受けたと好評でした。

ふるさと教育「羽後学」への導入に向けたSDGs事前学習



主催 秋田県立羽後高等学校
日時 2019年6月19日(水)
会場 秋田県立羽後高等学校(秋田県雄勝郡)

ESD
活動支援

羽後学(うごがく)で探究したテーマを題材にSDGsの視点から社会や暮らしへのつながりを考えるワークショップを実施しました。伝統芸能を守ることは衣装を作る仕事や踊り手の健康保持につながるなど様々な意見が話し合われました。

福島県教育旅行プログラムに係る研修会



主催 福島県観光物産交流協会
日時 2019年11月29日(金)
会場 ホテル華の湯 華胄(福島県郡山市)

ESD
活動支援

教育旅行の受け入れに携わる福島県内の関係者を対象とした研修会で、SDGsと新学習指導要領をテーマに開催されました。宮城教育大学 市瀬智紀教授より、学校での学びがどのように変化しているのか、現場の事例を交えながらご講演をいただきました。

ESD実践講座 第1回 SDGsとESDの基本を学ぼう



主催 いわきユネスコ協会
日時 2019年12月5日(木)
会場 いわき市文化センター(福島県いわき市)

ESD
共催

SDGsとESDの内容や背景、取組事例を学ぶセミナーを開催しました。いわきユネスコ協会の関係者や行政職員、学校関係者、いわき市内の企業の方など23名が参加しました。

EPO東北とは

東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的として2006年7月に開設されました。

持続可能な社会を目指したよりよい環境活動を進めるためには、行政や企業、市民、団体など、さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協力していくことが重要です。たくさんの方がEPO東北をきっかけにして出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

➔ 詳細は、EPO東北ウェブサイトへ

EPO東北 <https://www.epo-tohoku.jp/>



東北地方ESD活動支援センターとは

「ESD活動支援センター」は、ESDの更なる推進に向けて創設された官民協働によるプラットフォームです。地方ESDセンターは全国8カ所に設置されました。

東北地方ESD活動支援センターは青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県を対象に、学校や行政、企業や専門機関、市民など、さまざまな主体の取組みをつなぎ、皆さんのESDの活動がより活性化し促進されるよう支援します。

➔ 詳細は、東北地方ESD活動支援センターウェブサイトへ

東北ESD <https://tohoku.esdcenter.jp/>



メールマガジンのご案内

EPO東北や東北地方ESDセンター、環境省からのお知らせ、環境に関する催事や助成金・募集情報をお届けしています。
 ■発行/毎月2回(第2週、第4週) ■登録/EPO東北ウェブサイトの「メルマガ登録のご案内」よりご登録ください。

オフィス案内

各種資料の提供

環境やESD、SDGsに関する情報や資料を展示・提供しています。



ミーティングスペースの無料貸出

打ち合わせ、会議、小規模セミナーにご利用ください。



■利用時間帯/10:00~18:00(月~金)

■利用料金/無料

■利用人数/24名まで

※詳細は、EPO東北ウェブサイトでご確認いただけます。

休館日 土日祝、お盆、年末年始

業務時間 平日 9:30~18:00

住所 〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23仙台第2合同庁舎1F

TEL 022-290-7179 (EPO東北)

022-393-9615 (東北地方ESD活動支援センター)

FAX 022-290-7181 (共通)



地下鉄勾当台公園駅「公園1」出口より徒歩3分、
JR仙台駅から徒歩15分



世界を変えるための17の目標



表紙写真: 阿修羅の流れ(青森県 奥入瀬深流)
(画像提供元: 環境省東北地方環境事務所)

2020年3月発行